

平成26年度 スーパー食育スクール事業について

1 目的

文部科学省では今年度より新たに栄養教諭を中心に外部専門家等を活用しながら、具体的な目標を設定した上で、大学、企業、行政機関（農林、保健部局）、生産者等と連携し、食育を通じた学力向上、健康増進、地産地消の推進、食文化理解、国際交流など、食育の多角的効果について科学的データに基づき食育の有効性を検証することで、食育の一層の充実を図ることを目的にスーパー食育スクール事業を実施した。

奈良県では本事業を受託し、推進地域を定め、実践校をスーパー食育スクールとして指定することにより、先進的な食育プログラムの開発と普及に努め、食育の推進を図る。

2 取組の概要

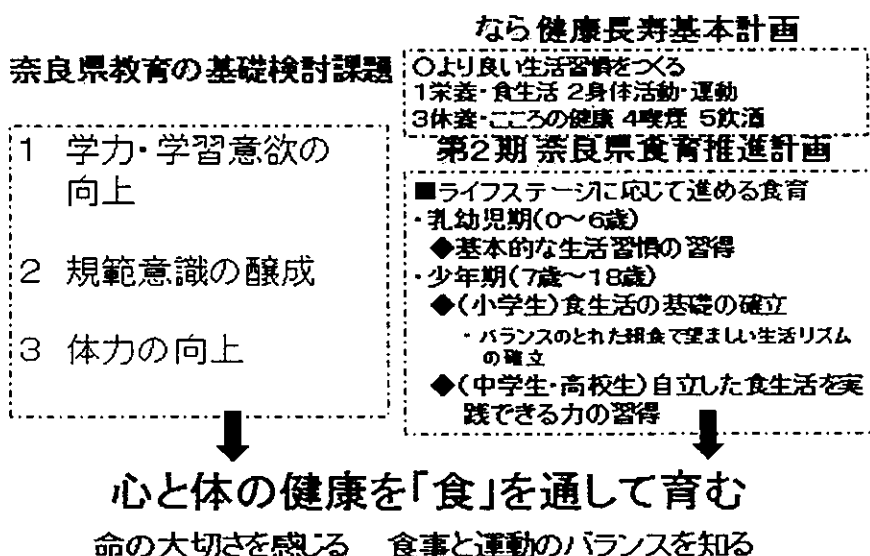
(1) 奈良県スーパー食育スクール事業推進会議の設置

学識経験者、推進地域代表者（教育委員会・学校給食事務所・実践校校長）奈良県学校給食指導研究会会長、奈良県学校給食栄養研究会会長、奈良県学校給食会事務局長、奈良県農林部マーケティング課長、奈良県教育委員会事務局保健体育課長で構成する奈良県スーパー食育スクール事業推進会議を設置した。

①平成26年6月23日（月）第1回 奈良県スーパー食育スクール事業推進会議

- ・奈良県教育の目標、奈良県食育推進計画及びなら健康長寿基本計画を踏まえ、奈良県におけるスーパー食育スクール事業の推進目標を設定し、推進地域の特色を生かした事業推進について協議した。

奈良県の課題との関連



②平成27年2月25日（水）第2回 奈良県スーパー食育スクール事業推進会議

- ・実践校の成果と課題について検討し、今後の奈良県における食育推進のための方策について確認した。

(2) 推進地域による調査研究

大和郡山市及び大和郡山市立治道小学校では、地域の生産者クラブ、大学、関係企業と連携を密にし、実践的な取組を多数実施した。活動量計による実態把握やアンケートによる実態調査を重ね、効果的な指導方法や具体的な方策を科学的に検証した。

(3) 報告会の開催

スーパー食育スクール事業の取組成果について、県内の食育・学校給食関係者に広く周知するため、事業実施期間中に2回の報告会を開催した。

①中間報告会 平成26年10月30日(金) 奈良県立教育研究所

- ・スーパー食育スクール事業説明
- ・実践校：大和郡山市立治道小学校における取組 中間報告
- ・記念講演「連携をめざした食育の進め方」-幼稚園から小学校、中学校へと繋ぐ食育-
大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授 春木 敏 氏

講演概要：それぞれのステージで進められている食育の現状をととして、今後の更なる食育推進に必要な幼稚園（保育園）・小学校・中学校の連携の在り方について、関係教科等の実践例を交え示された。食に関する指導に求められることは、学校教育では知識の習得から態度の形成を担い、行動修正から健康行動の習慣化が図られることであり、学習への関心、継続していく意欲を評価し、継続していくことが望ましい。また、教科学習と連携する食に関する指導を推進し、いつでもどこでも実践できるよう、指導者が常に情報をキャッチすることが大切であるとご指導いただいた。

②報告会 平成27年 2月 6日(金) やまと郡山城ホール

- ・大和郡山市立治道小学校における取組、成果と課題について報告
- ・記念講演 「運動・スポーツと食事」

天理大学 体育学部 准教授 松本 範子 氏

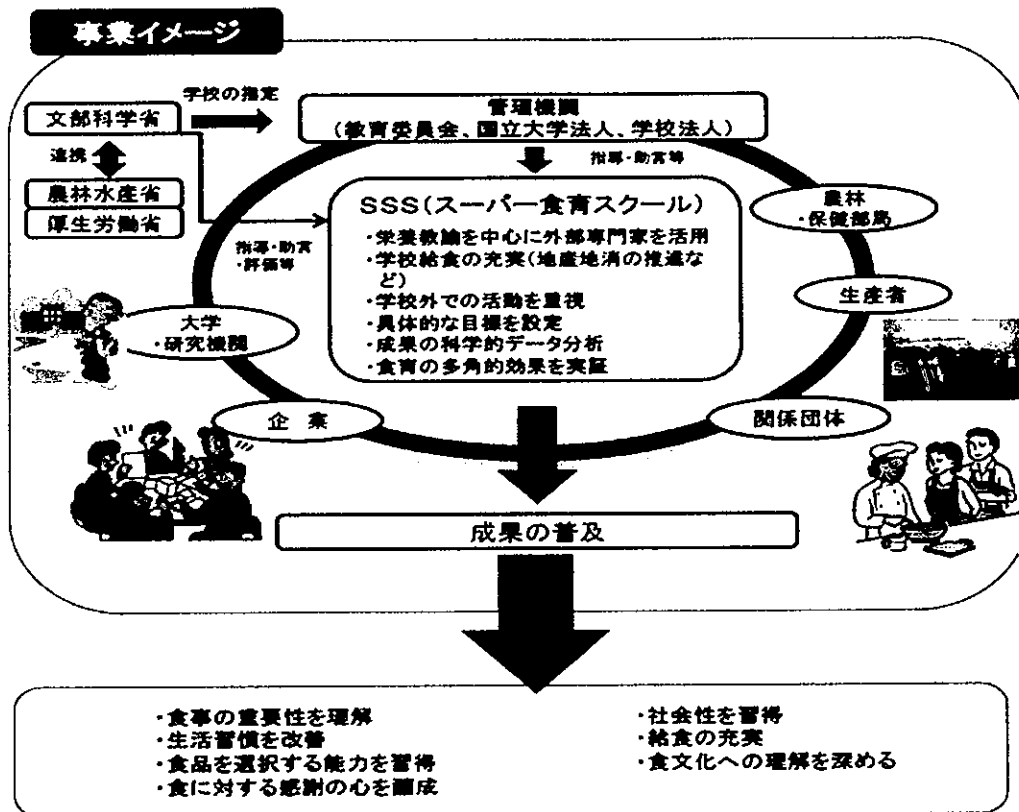
講演概要：本事業の目標の1つである「食と健康」についてスポーツ栄養の専門家として講演いただいた。実践校で実践した活動量計による子どもたちの運動量や実際に食べた食事量にふれながら、健康維持のための栄養補給の大切さや朝食欠食の生体への影響についても詳しく説明された。また、スポーツにおける栄養の役割について、最も重要な栄養素として、炭水化物、ビタミン、カルシウムを具体的にあげ学術的根拠を示しながら説明され、競技力向上に向けた食事の摂り方等多くの事をご指導いただいた。

3 事業を実施して

・小規模校の利点を生かし、児童一人ひとりの生活習慣や食に関する意識を変容させる丁寧な指導が展開できた。

・関係専門機関と連携することにより、取組を数値評価し、効果的な実践方法を構築できた。また、保護者・地域と一体となった取組や体験学習は、地域理解や感謝の心を育んだ。

以上のように実践校において食育の取組を進める中で、①関係機関との連携の強化、②望ましい食習慣形成について家庭・地域の意識向上③学校における教職員の食に関する指導への共通理解、給食時間及び関係教科における計画的な指導の重要性を再確認した。これらの実践を2回の報告会を通して県内の学校に広く周知し成果を収めた。



奈良県スーパー食育スクール事業の概要

(国庫10/10)

文科省予算額 200,689千円

平成26年度指定校として33事業(42校)

内訳: 学校別 小学校26校、中学校8校
高等学校5校、中高一貫校3校

設置者別 国立1校、公立37校、私立4校

公募状況: 全国51事業(65校)から企画提案書の提出があり、選定委員会により、事業の独自性、継続性等の観点により審査。

文部科学省

委託契約

奈良県教育委員会

大和郡山市教育委員会

治道小学校をスーパー食育スクールとして指定

- ・地産地消の推進、生産者との交流
- ・体験活動(農業・学校給食センター見学等)
- ・食育に関するデータ分析(児童の活動量)
- ・栄養教諭による食育の指導の充実(幼・中連携)
- ・大学との連携(ゲストティーチャーの活用等)
- ・報告冊子作成
- ・成果報告会の開催

学校における食育の推進

モデル校をスーパー食育スクールとして指定

モデル校: 大和郡山市立治道小学校

- ・外部の関係機関と連携し食育プログラムを開発
- ・栄養教諭を中心に専門家を活用して食育推進

スーパー食育スクール事業

県

奈良県SSS事業推進会議に係る業務

報告書作成に係る業務

活動量計データ分析委託業務

報告会開催に係る業務

全国連絡協議会に係る業務

大和郡山市

食育推進活動事業委託

SSS事業における食育推進の実践及び調査研究

SSS事業推進ワーキングに係る業務

SSS指定校における

地域と連携した栄養教諭による食育の指導の充実

・体験学習の実践 ・大学等関係機関との連携

・報告書作成に係る各種記録

・活動量計データ分析に係る基礎データの蓄積 等

スーパー食育スクール事業報告

～治道小学校から発信！
心と体の健康は充実した食から～

現状と課題	事業の説明	評価	実施の概要	成果と課題
-------	-------	----	-------	-------

今年度より栄養教諭が配置され
「スーパー食育スクール」の指定をうけ、
さらなる食育の充実を図る
○地域の農産物への関心の薄れ
○偏食傾向（魚、野菜等）がある
○バランスのよい朝食を毎日食べる児童の割合が低い
(県平均との比較)

「食と健康」

～食と健康の関わりを学ぶ～

食育の在り方に関する有識者会議

食育の場と対象

学齢期前から小中高以降の食育の場・対象とする
学校を地域社会の食育の核とする

食育の6つの視点

- ①食事の重要性
- ②心身の健康
- ③食品を選択する能力
- ④感謝の心
- ⑤社会性
- ⑥食文化

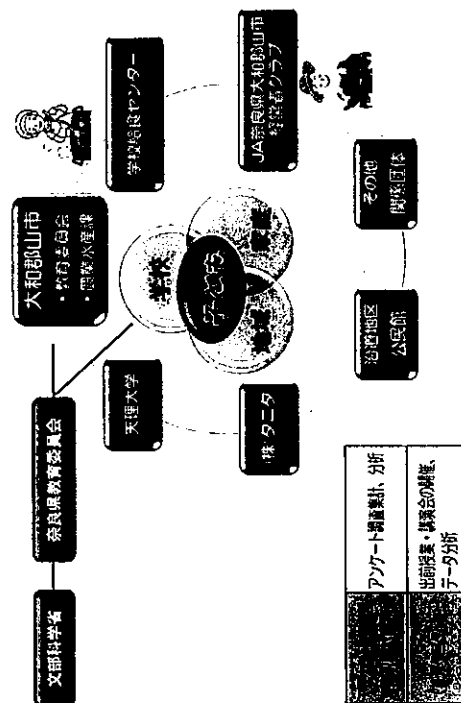
学校における食育の在り方

栄養教諭だけでなく学校全体で食育に取り組む
学校給食は食育の生きた教材
栄養教諭の配置拡大を推進
家庭の取り組みを重視し家庭へのアプローチを重視

当面の具体的取り組み

スーパー食育スクール(SSS)の指定と食育教科書の策定

【組織連携図】



学級担任と栄養教諭(PT)による授業参観

実施日 平成26年10月26日(日)
 場所 治道小学校 2年1組 教室
 対象 2年1組児童
 指導者 学級担任 栄養教諭
 題材名 「えいようまん点 朝食にへんしん!」

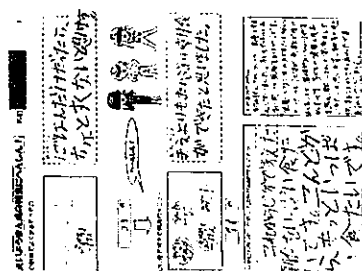
朝食の大切さを
 保護者とともに
 学習する機会を持つ。



保護者の感想

食の勉強のおかげで、最近はずつ量や品数も増えて食べて登校するようになってきました。

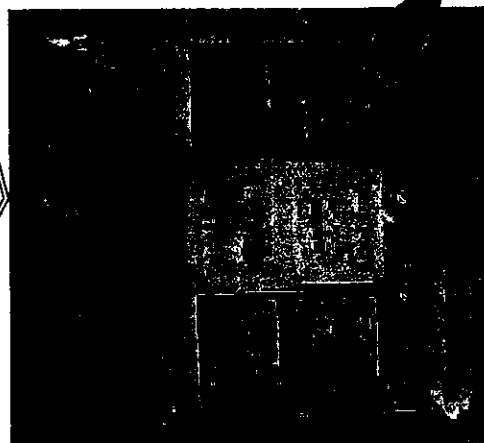
親子で勉強することができて良かったです。



体の健康

掲示資料・食育だより

子どもたちが毎日通る
 昇降口付近に掲示



▲掲示資料

▲食育だより

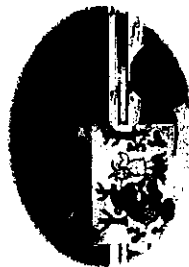
めくると3つの
 元気スィッチの
 はたらきと
 主な食品が分かる



体の健康

親子料理教室

実施日 平成26年7月29日(火)
 場所 治道公民館 調理室
 対象 児童と保護者(希望者)



実施内容

- 調理実習 「地産野菜を使った かんたん朝ごはん」
- 朝食についてのお話し

講師 管理栄養士 乾 恵子 氏



保護者の感想

色々な作り方を教えてもらえて、子どもたちも楽しく作ることが出来てよかった

家でも親子クッキングを楽しんでいけるようになりたい

子どもの感想

また、家でも作ってみたい

自分で作ったらおいしかった

包丁を初めて使ったらおもしろかった

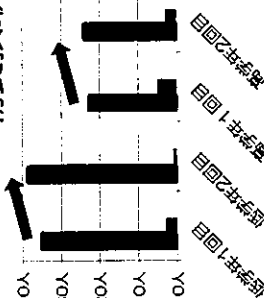
体の健康

検証

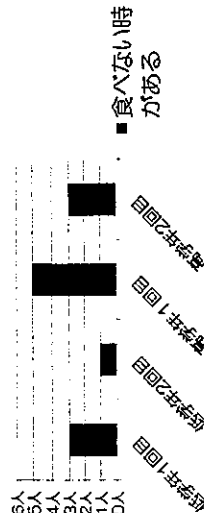
1. バランスの良い朝食を
 毎日食べる習慣を
 身につける

朝食摂取

- 毎日食べている
- 食べないときがある
- ほとんど食べていない

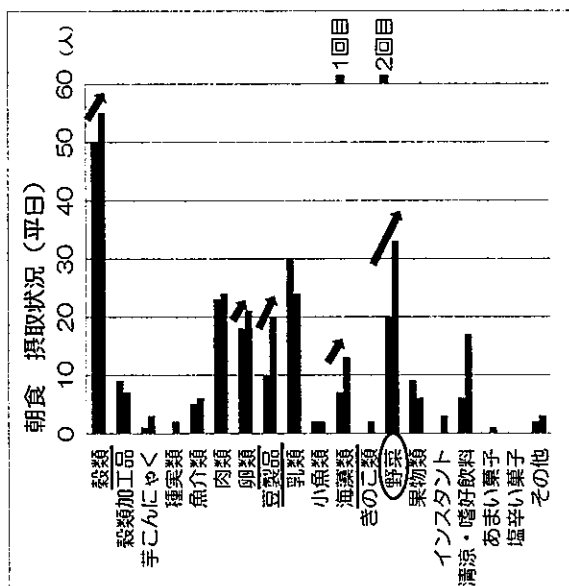


食べない時がある



検証

1. バランスの良い朝食を
毎日食べる習慣を
身につける



- 野菜の摂取：増加した。
- 摂取食品群：増加した。

2. 健康の自己管理能力の育成

スポーツ選手との交流学習

実施日 平成26年10月24日(金)
場所 治道小学校 教室及び運動場
対象 全児童
指導者 奈良クラブの選手 (5名)

実施内容

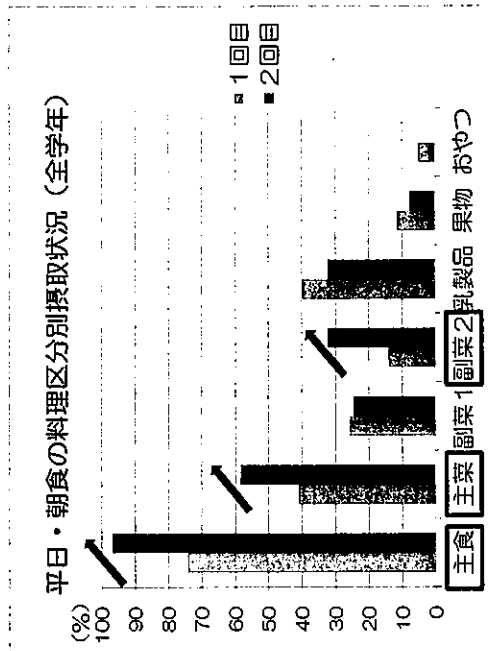
- 各教室で選手の方の話
- 1 自己紹介
- 2 「食」の大切さについて
- 3 給食の思い出
- 給食を食べながら歓談
- 休み時間：選手と一緒にサッカー
- 5時間目：5・6年生とサッカーの授業



体の健康

検証

1. バランスの良い朝食を
毎日食べる習慣を
身につける

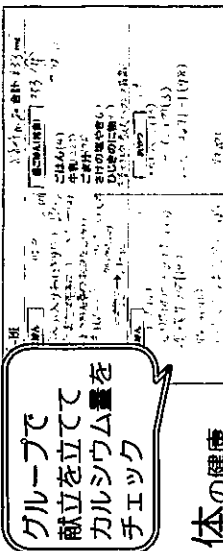
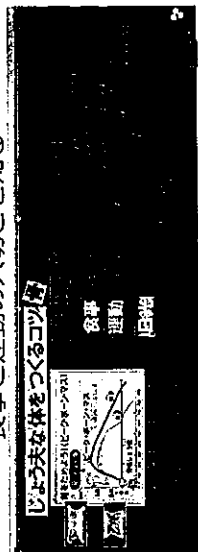


- 主食、主菜、副菜2
(汁物含む)が
増加した。

学級担任と栄養教諭(TT)による公開授業

実施日 平成27年1月22日(水)
題材 「丈夫な骨をつくるコツ (骨)」
対象 5年1組児童

内容 丈夫な骨のつくり方
～食事と運動の大切さを知る～



グループで
献立を立てて
カルシウム量を
チェック

丈夫な体をつくるのに、日光が大事ななんて知らなくてびっくりしました。

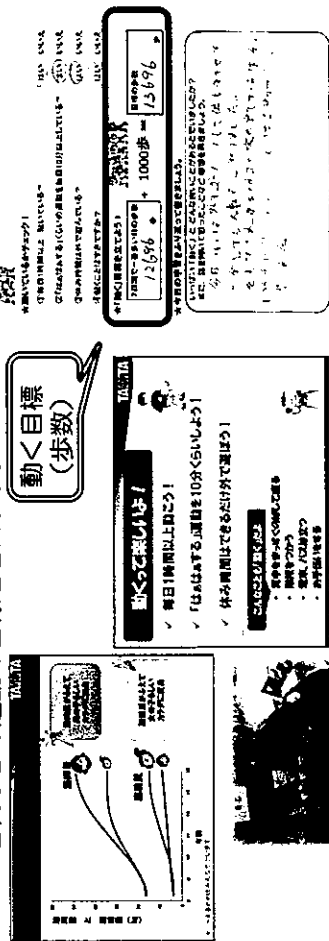
1日に行きただけカルシウムをとって骨が減る量を少なくしたいです。

体の健康

(株)タニタ出前授業

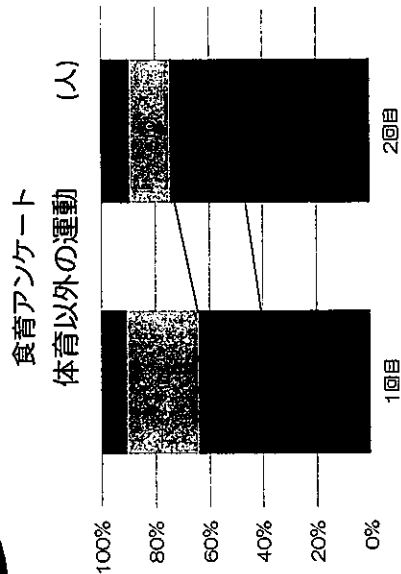
実施日 平成26年12月8日(月)
 実施所 オープンスペース
 対象者 低学年・高学年
 指導者 タニタ(株) 開発部 深山 知子氏

内容 運動の大切さと自分の体について学ぼう。
 活動量計をうまく利用して
 これからの運動の目標を考えよう。



体の健康

検証

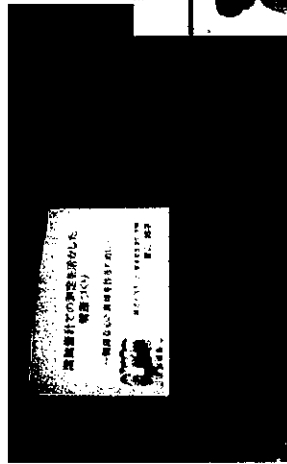


■ 週5日以上 ■ 週3-4日 □ 週1-2日 ■ していない

● 「体育以外の運動を週3日以上している」
 1回目64.1%、2回目は71.4%と増加した。

家庭との連携

学校保健・食育推進委員会
 実施日 平成26年8月29日(金)
 実施所 治道公民館
 対象 保護者



実施内容

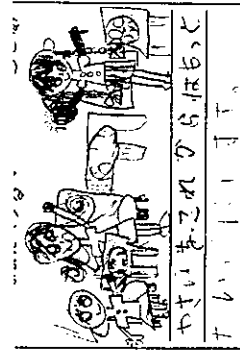
- 健康診断の結果報告
- 今年度の保健計画について 何事もバランスが大事だなと思いました。
- 体力テストの結果
- 食生活について
- 講演 演題「活動量計での測定を活かした健康づくり」 講師 榎タニタ 開発部生体科学科 深山 知子氏
- 校医先生からのお話し

体の健康

3 自他の命を大切にしようとする心の育成

学校給食地場産物生産者の方との交流学習

実施日 平成26年6月18日(水)
 交流学年 1年1組
 生産者の方 今西高広 (丸なす生産者)
 内容 4時間目：生産物の特徴や苦労話などを聞く
 給食の時間：一緒に給食を食べる



心の健康

現状と課題	事業の説明	評価	実践の概要	成果と課題
総合学習の時間 実施日 平成24年7月7日(月)、9月19日(金) 対象 3年1組児童 内容 「治道トマトを作ろう食べよう」 栄養教諭による「野菜パワー」の指導をおこなった 「治道トマト」の収穫と調理の様子 心の健康 体の健康				
現状と課題	事業の説明	評価	実践の概要	成果と課題

現状と課題	事業の説明	評価	実践の概要	成果と課題
校外体験学習「ラッテたかまつ」 実施日 平成26年10月31日(金) 対象 全児童 事前学習 道徳学習にて、絵本を題材にいのちの学習を行った。 事後学習 体験の感想文や絵を描いた。 【アイスクリーム作り体験】 心の健康				
現状と課題	事業の説明	評価	実践の概要	成果と課題

地産地消に関する取組

【給食委員会 活動】
「地産地消〆クイズ」

身近な「治道トマト」以外にも、大和郡山市内には大和丸なすやいちじくなどの特産物があることを改めて知る機会に

【掲示資料】

野菜や果物は紙粘土で立体的に作成

効果があつた取組

- 学校給食地場産物生産者の方との交流学習
- 「大和郡山の日」の活用

充実した学校給食の提供

学校給食地場産物利用拡大モデル事業について

- 市内で作られる食品を使った加工食品の開発
- 学校給食で使う地場産野菜の品目の増加
- 学校給食用野菜の生産者組織体制の強化

大和郡山市
農業水産課との連携

学校給食センター栄養士による食育について

◆ 食に関する指導
給食時間の指導「大和郡山の日」(全小学校)
食育授業「きゅうしょくってなにあに」(全小学1年生)
放送指導資料の配布
献立表の裏面を利用した「給食だより」の配布

◆ 中学校給食の開始(平成27年度4月から)
9年間に渡った「年間指導計画」の作成

◆ 食物アレルギー(乳・卵・落花生)対応食の開始(平成27年度4月から)

地域との連携

小学校給食用野菜 特別販売

平成26年 6月6日～8日
イオン大和郡山店

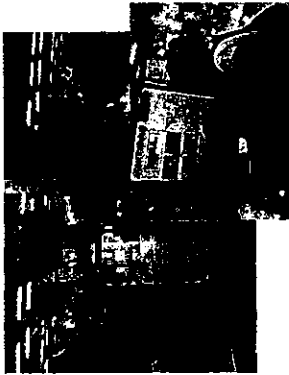
JAならけん大和郡山市経営者クラブの方が中心になり給食の野菜の安全性などをPRし、販売しています。



食育月間イベント

平成26年 6月21日
アピタ大和郡山店

市の保健センターと連携した事業で学校給食のPRをしています。



成果と課題

(1) 数字で変化のあった事項について

指 標	6月	11月
毎日、朝食を食べている児童の割合	87.9%	93.9%
朝食に野菜を食べる児童の人数	20人	33人
週3回以上、体育以外に運動(外遊び含む)をする児童の割合	64.1%	74.6%
「いただきます」の挨拶をいつもする児童の割合	64.6%	67.7%
地場産物を知っている児童の割合	62.7%	82.1%
学校給食の地場産野菜(大和郡山産)の使用品目	(25年度) 21品目	(26年度) 25品目